



高崎志

中



高崎志卷中

高崎

川野邊寛纂述



連雀町 レニシヤクテラ
雀一
作人

連雀町ハ初箕輪ニアリ慶長三年戊戌箕輪ヨリ此ニ移ル箕
輪ニ於テ大手門前ニ在リ町ナルヲ以此ニ移リテモ亦城主ヨリ命ノ
大手門前置舊名ヲ不更ト云名義未詳昔ハ四方ヨリレニシヤク斂著
用テ物ヲ負来テ城下ニ賣者ヲハ毎年一度此町長制アリテ錢ヲ
征トルテアリ土俗レニシヤク斂著運上下號コトスカル今ハ無之箕輪在リ時
ヨリ此事アリ故ニ斂著町ト称ス斂著俗ニ連尺ニ作ル今連雀

字ヲ用フルハ其本ヲ不考ノ身ノ名ヲ以テ改ル也ト古老云リ然
レ他城下ニモ亦此名アリハ猶不審也昔此所ノ長貝發新兵衛
堀口務右衛門ト云レハ箕輪ノ豪家也故此徒リニ後モ城主ノ
命ニヨリテ二人領内村里ノ長ノ上ニ居リ当所ノ地子ヲ免サレ
地子ノ種古ヨリ有之唐書食貨志ニ出
タリ此方ニテハ弘仁式ニ見ヘタルヲ始ナルキ同五年關原御陣ノ時ハ
城主ヨリ鎗及數具足等ヲ分屬シ此地ニ變アラハ城下ノ民兵
ヲ率テ留守ノ下知後ノ一トナリ今ニ至ル迄此所ヲ總所ノ茅
一ニ置此所ノ役人ヲ總所役人ノ上ニ居ヤムルハ此等ノ子細
故トソ井伊直政關原在テ貝發堀口二人ニ賜リシ黑印ノ

ノ谷傳ヘテ今ニアリ

此所ハ昔ヨリ驛場ニアラス又客舎モナケシ共敷地モ廣ク大
ナル家造リモアリシ故往來ノ諸大名モ休泊セラレトナリ因
テ本陣トハ呼ビト也其後今ノ年哥福田某カ先祖世ニ本
陣ヲツトメ來リシヨ數度火災ニ遭テ家作モ津ヨシヤク小ク且城
主ヨリモ倉賀野ニ本陣アレハ事トルニトテ終ニ城下ニ本陣
ヲ置シスサレト今猶玄關座敷ヲ構テ諸族城下ヲ經過セ
ラル時ハ城主ノ使者等此ニ出向ヲフニ應對スル也故ニ士人ハ今
本陣ト呼フ

此町ハ東西ノ町ニ昔ハ大手門前ヨリ今ノ外形木戸間ヲ一
町目トシソレヨリ東大道ノ間ノ二町目トシ又ソレヨリ東通所
境ニ至ル迄ヲ三町目トス通所ハ昔ノ本道ニ此所ハ城中ヨリ
通所ニ出ル大道也今ノ本道ヲハ其頃ハ横町ト呼ビ下也寛
文九年己酉 城主安藤右
京進重長 城内狹ニトテ新ニ外郭開カル其
時一町目ノ人家ヲ他ニ移シ其地ヲ家ノ宅地トス享保十二年
丁未火災ノ後城内火除ノ為ニ空地トス今俗ニ廣小路ト云
大手門通ニ並ヘル商家ニ清潔ナル物ヲ賣買スヘキヨシ昔
城書リ命セラル固テ多ク下仁田紙 当国下仁
田ニテ所製 ヲアキナフ故ニ

此紙ハ他所ニ於テ纏ヒサクイヲ禁セラル但狹糸トテ置テ竹ニ狹
舗ニ挂テ賣往來ノ旅客ニ便スルハ此限ニアラストリ

此地高崎ノ中央ナレバ慶長三年城下町割ノ繩張アリニ取
最初ニ此町ノ所居ヲ定メ其ヨリ南北總町地割ヲナセト也
其時標ニ立タル大石迄キ頃迄衢ノ北角ニアリ此町ヲ中央ト
定ル故ニ北方田町ニテハ南ヲ上下ニ南方新町ニテハ北ヲ上下
スルナリ

道祖神宮 昔四辻ニアリト云今ハ見ス土人云今石原觀音
堂ノ後山上ニアル宮是也ト遷セル年月不知

神明宮 田所ノ境西頬ニアリ伊勢西宮ヲ祭リ遙拜所

トス土人伊勢殿ト称ス六月九月十六日十七日ヲ祭日

トスイツノ頃ヨリ祭ルリニヤ年月不知

此所ニ傳タル古キ記録等數度火ニ焼ヒ又散失ノ今可

証モノナシ本所ニ存スル舊記及里老ノ傳統據テ其梗既ホラ

記スルノミ

田所

田所ハ連雀町ノ北ニ續ケリ是モ慶長三年此地ニ徙其
輪ニテハ田宿ト云シ故舊名ニ因テ田町ト名ツク同七年壬寅

正月ヨリ中山道ノ傳馬役ヲツトムルサレ共継場ハ舊例ニ

ヨリテ本所ニテツトム同年八月ヨリ地子ヲ免サル寛永九

年壬申始テ問屋場ヲ本所田所新所三所ニ分シヨリ

以來一月ヲ三分本所ニテ十四日田所ニテ八日新所ニテ八日ツトム

ル也又毎月五十ノ日市アリ此市ニ限テ絹綿賣買アリ

元禄三年庚午八月ヨリ他所ニテ賣買スルイヲ領主ヨリ

禁制セラルカ故也

木所 此所一所目ノ内朝所ニ入小路ヨリ連雀町境ノ間ヲ

云昔ハ近キ山里ヨリ薪ヲ負来テ此所ノ中舗ニテ粥高ル

故ニ土人名ツクルトナリ

慈上寺 東カハ類ニアリ普フ化ケ禪宗ノ虚ム無寺也金剛山

ト号ス今ハ無住也本尊釋迦ノ木像アリ寺記後深

草院ノ御宇建長二年庚戌八月紀州由良湊興國

寺ノ開山法燈ホフトウ禪師ト同船ニテ来化セシ寶仗居士ヲ

元祖トシ相州三崎ニテ宗和派ト号シ其後二十代法

嗣湛光風車カ時箕輪城主長野信濃守業正招

ニヨリテ箕輪ニ来ル此時根笹派ト改メ田宿ニ住セシカ

關決道無代慶長五年庚子此ニ移ルトアリ室曆

辛巳ノ夏ヨリ武州青海鈴法寺総州小金一月寺

ノ觸下トナル箕輪ニ在シ時ヨリ大雲寺在九歲町
見下條ニ菩提

所トス虚無寺ヲ世ニ風呂屋ト云フハ諸國虚無寺湯

風呂ヲ建遠近ノ人ヲ上ラマス浴セシム故也是ハ

公義御尋ノ罪人ナトアル例此宗ハモ仰付ラレ故

浴室ヲ設テ諸人ヲ浴セシメ或ハ弟子ヲ諸國ニ行脚セ

シメテ其罪人ヲ搜サガシシモトス索ムルトナリ此寺ニ古キ眷モアリ

寺賣

薬師木像一軀 作者未詳古作也

普化禪師畫贊一幅 筆者不知古物也相州ヨリ傳
來ストス

兜鉢一頭 明珍吉家作

以上

西小路一町目ヨリ朝所ニ出ル

東小路一町目ヨリ白銀所ニ出ル

古著所ハ一町目ヨリ中紺屋所ニ出ル小路也元文ノ頃ヨリ

故キ衣服ヲ買賣スル者多シ故近年此名アリ

市神宮 古著所ニ入南角ニアリ 檜皮葺東向也所祭祇

園牛頭天王此宮元ハ石祠也北月延徳三年亥年六
月十日トキリ付テアリト云今ハ宮中ニ造リコノル故
見ハス寛政巳酉迄三百年也享保十乙巳年十
一月今ノ宮ヲ造立ス神體ハ秘ノ見ル人ナシ所中持シ
別当ハナシ祭日ハ南所ノ愛宕別当龍室寺ヲ請テ
法樂ス毎年正月十日初市六月十日祇園會祭也曲
中藏ヲ立相集テ鼓吹シ又サマシノ造リ物ヲ出ニテ壯
觀トス

東小路本紺屋所ニ出ル

八軒所三所目ノ東小路ヲ云初此所ニ人家唯八軒アリ
故ニ名ツ此地面二段二十三歩アリ地子錢三貫百十
一文ヲ出ス土俗是ヲ唐澤年貢ト云 高崎ニ限リテノ
名也其故ハ安藤家時家人唐澤所左衛門ト云者
所地ノ鏝^{ロシ}年貢ヲ収ルイヲツカサトリ^{ケニコクノカサシ}嚴酷^シ謹責^セセシ
トニ終ニ彼年貢ヲサシテ唐澤年貢ト呼ビヨリ定ルル
トニ成テナリ三傳馬所連雀所ノ外ハ其地大抵唐澤
年貢地也 唐澤所左衛門初ハ城下ノ百姓ナリシカ後ニ領主安
藤家ニ仕ヘシヨシ終リハイカナリケシ未聞子孫ハ並キ
項マテ砂賀所ニ在シカ安永年中アト絶テ今ハ其屋敷地ハカリ
残レリト云此所左衛門ハ元本所ノ者ト本所ニテ云傳タリ古キ

御圖帳ニ其田地モ見ヘタシハ初ハ本所ノ者ナルヘシ此等ノ事記スル
ニ及ハサル事ナシ共唐澤ノ名ニ付テトリノノ説アレハ此ニ詳ニス

真應寺

真應寺ハ八軒所ノ南類ニアリ真言宗ニ清玉山遍照
院ト号ス柴崎村光明寺ノ末寺也境内除地也開山ヲ
清呼ト云

門北向瓦葺

阿彌陀銅像 門内ノ右ニアリ大像也

八幡宮 石祠也昔此所入口北角ニ一小石祠アリ所割繩張

アリニ頃ハ此邊柳多ク生タ原ナリシカ何時ヨリカ此

宮アリテ所祭モ不知故ニ土人ハ幡宮ト云^ル崇メマツト云
又箕輪ヨリ遷^ルセシ共言傳タリ此ニ移セシハ慶安年
中ト云リ

天満宮 同所ニアリ板宮也

本堂 八間六間南向萱葺也本尊大日如来木像
也七観音弘法大師ノ木像ヲ安ス閑山清叶像モ
リ每七月十七日夜観音參詣ノ人群集ス

庫裡六間ニ四間萱葺

護摩堂三間ニ二間瓦葺本尊不動ノ本像ヲ安ス

柳町 三町目ノ西小路ヲ云寄合所ニ出ル昔此邊ヨリ北

新紺屋町ノ東裏通柳生タル草原ニ沼ナトアリシ
ト也町地ニ定リテ草木ヲ伐拂テ津ノ家作セシ此
地ニ古木ノ柳五六株残りテアリ固テ柳町ト呼ビト也
今ハ家居立並テ尺寸ノ異地モナクソレト覺^スモ所モ
ナシ又市ニ此邊ヨリ寄合所ノ間多ク烟草ヲ賣故
烟草横町共云

此所モ記録等焼亡散失ノ今ハ唯池野某大澤某寺カ
所蔵僅ニ存スル而已

九藏所

九藏所ハ田所ノ北ニ續ク享保十年乙巳十月十八日火災
ニ罹テ記録悉ク焼ヒス故ニ其始サタカラス里人ノ説慶
長六年北凡九藏ト云者始テ此ニ居ル後ニ人家漸ク増
及テ領主ヨリ九藏ヲ以名主トシ所ノ名ヲモ九藏所ト呼ヒト
命セラル此九藏ハ大坂御陣ノ時酒井家次供ノ上リニ城下
四人ノ中也所謂四人ハ及所梶山須藤北凡也數世和田氏
ニ事ハ事ニ馴タル者ナレトテ石ツシラシトナリ九藏此時
ヨリ酒井氏ニ事ハ子孫今テ彼家ニアリト云及所梶山須藤

等カ子孫ハ本所ニアリ

一里塚 裏所通所通り西側人家ノ裏ニアリ今ハスカシテ

其カタハカリ残レルノ上ニ稻荷ノ小祠アリ是昔ノ本

道也按スルニ慶長九年二月東海東山北陸ノ三道ニ

命ノ里^リ^コ^フ^カ^マ^シヲ築シノ玉フイ家忠日記松榮紀事等見

ユ又本所ニ取傳ノ記録ニモ此事見ヘタリ武徳編年集成

台徳公東海東山北陸ノ三道ニ里塚ヲ築シノ玉フ天正ニ
織田信長分国ノ中ニ里塚ヲ築シノ地ノ三十六禽ヲ表シ一
里ヲ三十六所ニ寛ノ家上ニハ榎ヲ植ケル此度モ准セ
ラルハキ旨有司ニ命セララル中夏諸国其功ヲ終ルトアリ此時

築シナルヘシ今ノ大道ハ酒井氏時定ノミト云

西小路ハ新緋屋町ニ出ル三十三間長屋ト云昔此所北頬^{カハ}境^{サカ}マテ三十三間ノ間ニ長屋ヲ建テ人ヲ居ラシメテ故ニ

カシムリトソ南頬^{カハ}ハ新緋屋町也

東小路^{カ子ウチマテ}磬擊手町ニ出ル

正法寺

正法寺ハ東小路ノ南頬^{カハ}ニアリ廣布山ト号ス日蓮宗ニ

甲斐又因身延山久遠寺ノ末寺也間基不知開山本龍院

日敬文祿二年箕輪長中山妙福寺ヨリ此ニ移ルト云傳

タリ境内除地

文祿二年
可殺蓋
傳説謬之

門北向

稻荷社 東向本堂ヲ西ニアリ當寺ノ鎮守也板葺

本堂 西向八間六間半瓦葺也向拜ノ額^{カシ}廣布山ト

アリ中央^ヲ室塔ヲ安置^ト釋迦多寶佛木像ヲ左

右ニ安ス上行無邊行淨行安立行等及文殊普賢不

動愛染四天王木像モアリ高祖日蓮上人木像ハ

弟子中老日法ノ作ト云リ日蓮姓ハ三國氏房州ノ人

也弘安五年十月十三日寂ス当宗ノ元祖也年六十一

詳ニ注書讀ニ見ヘタリ毎年御影供參詣群集ス

寺寶

日蓮上人消息一幅

火車除七條袈裟一頂

智者大師畫像一幅

曼荼羅一幅 身延山日遠筆

以上

三十番神社

七面明神社

鬼子母神社

右三社ハ享保十年ノ回祿後未再造

裏門 東向通所ニ出ル

大雲寺

大雲寺ハ北類ニテ青龍山洞珠院ト号ス禪曹洞宗ニ在

氷郡秋間村挂昌寺末寺也寺領十五石 御朱印

リ当寺ハ初箕輪ニテ開基弘治年中ト云リ開山然室

玄ケシカク廓ト云ニ世吞廓トシカクノ時慶長四年此地ニ移ル城主井伊直

政キ帰依アリケシハ彦根ニ移ラシ後モ城下川原所ニ宇ヲ

建立シ大雲寺ト號シ吞廓トシカクヲ招テ住セシム今当寺末

寺也当寺、縁起記録等ハ享保乙巳火災焼亡ニ今
僅^{ワカ}舊地殿堂、因ナト遺^レルノミ

總門 瓦葺南向也

地藏堂 一門四方銅板ニ葺延命地藏、銅像ヲ安ス

門内、右ニアリ

白山宮 板宮同所ニアリ鎮守也

薬師石宮也昔ハ当寺北宿御堂ト云所ニアリ當城

鬼門鎮護、薬師ト云傳ノ城主寄附ノ祭田アリ

山門 南向二丈三尺四寸ニ丈五尺四寸アリ瓦葺也額ハ

青龍山トアリ月舟筆樓上ニ彌 勒佛ヲ安置ニ左右

ニ十六羅漢ノ木像ヲ置ク

回廊東五間南九間一尺西十間半アリ跋陀羅烏瑟

沙摩ノ木像ヲ東西ニ安ス瓦葺也

衆寮山門ノ左ニアリ二間九尺瓦葺東向也虛^{ユク}定^{テイ}地藏

ヲ安ス

禪堂 衆寮ノ右ニアリ瓦葺四間半ニ三間アリ千手觀

音ノ銅像ヲ安ス九尺ニ二間ノ附屋アリ

六地藏本堂ノ前ノ左右ニアリ銅像也

本堂十一間半、八間半南向瓦葺也、向拜左右聯、靈
芝產景福惟迺藤蔓曲天龍擁護トアリ堂上額
ハ大雲寺ノ三字共三月舟筆也本尊釋迦脇士文珠
普賢也大權達摩道元ノ本像ヲ後檀安置ス
間山堂三間、五間瓦葺本堂ノ後アリ左右聯大
地山河億此無山河大地顯斯無春天花與冬
天雪非有非無無亦無トアリ一梁筆也開山然室
玄廊和尚自作ノ木像及中興吞廊ノ牌ヲ安ス
庫裡西向五間、十五間瓦葺

寺寶

阿彌陀像一軀長五尺二寸惠信僧都作也此木像
元、寺中彌陀院本尊也今禪堂ニ安ス

十六羅漢畫像十六幅北殿司筆

福祿壽畫像一幅雲舟筆

壽老人畫像一幅雲舟筆寫

以上

彌陀院地藏院皆境内ニアリ享保十年燒亡後

廢ス

鐘樓 同時回祿カハシ今廢ス
当寺ノ門末三箇寺アリ

本所

本所ハ高崎根本ノ所也慶長三年戊戌中山道啓テ
和田城ヲ築カレシ時金井宿馬上宿ヲ此地ニ移シ町トス
城下ノ根本ナルヲ以本所トハ名ツケテトリ驛傳ハ和田例因
テ此ニ徙リテモ梶山与ニ右衛門世ニツトメテ今ニ至ル永祿七
年甲子武田信玄ヨリ賜リシ朱印ノ畚元龜元年庚午
土屋右衛門尉奉書等傳テ彼家アリ又天正七年己卯

十二月小田原ノ下知トノ關八州駅場ハ新ニ立タル制札天正
十八年庚寅宿ノ下サレシ書付慶長三年以來中山道駅
場制札往來荷物駄賃ノ定書等數通ヲモ所持セリ天和
二年壬戌八月制札奉行ヨリ尋テ依テ本書ヲ出テ今ハ
其寫ノミアリ其外記録等所持ノ家多シ此町九藏町
北ニ統ク

札辻 北願ニ制札アリ

市神宮 小石祠ニ社制札場後西カニ並テ東向ノ所祭
牛頭天王也一云南ニ赤坂明神北ニ牛頭天王也ト未

詳説赤坂明神下見タリ昔ハ制札場ノ柵内ニ在リ
元禄四年辛未五月今所ニ遷ス毎年六月二十八日祭

驛場ノ問屋昔ハ此所ニ在リ故ニ往古ヨリ此地子ヨ免セ
問屋ハ城主ヨリ給分アリ其後驛ヲ田所新町ニ分事由
所ノ下ニ見タリ享保始メ六木曾山福嶋邊ヨリ出御用木
弱檜板葺板等ヲ本山ヨリ高崎ニテ通シ馬ニテ駄オシリ河岸
ニ筏ニ組テ江戸ノ下セニトナリ故其商人共ニ旅宿此所アリ
テ莊屋各河岸ニ持場アリテ材木ヲ積置キ番人ヲ附置又
竹伐来トイフ者モ筏場ニアリ也竹伐場ノ事下ニ見タリ筏

事ヨリテ慶長九年甲辰慶安元年戊子訃訃記録慶
長十九年甲寅新田町ト事論ノ時領主酒井家次ヨリ賜
リシ黒印ノ書自筆ノヨシ公傳アリ今傳テ此町須藤某ノ家ニテ享
保年中子細アリテ領主ヨリ姑ク筏ノ通用ヲ止ラレ此町各
舎多クシ

佐渡御金藏 問屋梶山カ宅ノ北日ニアリ毎年佐渡ヨリ

江戸ニ上ル所御金荷此町止宿時藏置ク庫也安藤

家時元禄五年壬申正月建之

湯屋横河ノ南嶺嘉多所ニ出ル小路也此所湯屋アリ高

崎湯屋ノ始也ト云

野道 北頬ニアリ 阪タシホ岐ニ出ル

曲尺子 大道此所ヨリ南ニ折マレタリ 故ニ名ツク

市ハ三八日也 然シカシ共常ハナシ 唯七月十三日十二月二十八

日市アリ

問屋 梶山与三方衛門カ 居家ノ慶長十九年改メ作嶺

主酒井氏ヨリ 城下町ニ 大坂御陳ノ事ヲ告令セラシ

日上棟也 其家作後數度ノ火災クハサイヲ免ノボシテ今ニ存セリ 里

人傳稱一奇事トス 元和七年辛酉二月ノ大火ニモ四隣リ

ハ悉ツトシク燒シカト 此家ハ不思議ツガニ恙ナカリトナリ此元和ノ火災

火ト稱シ大火ノ例ニ引クイハ昔和田氏ノ僕從ニ松本市右衛門ト云者
アリ 和田氏没落ノ後 年老テ髮ヲ剃名ヲ道觀ト更メテ今ノ四屋
町ノ邊ニ住シカ 彼カ廬ヨリ失火メ折シモ列ノ風ナリニカ 城下ノ人家
悉ク燒込セト云傳タリ

此町ニ和田氏ノ支流シ及家人寺ノ子孫トテアリ 各古キ文書早ト

傳ヘタリ

椿町 町ノ東ツキアタリノ小路ヲ云昔ハ此小路ヨリ通町ヲ

木道ニノ倉賀野ト往還也 今ハ左右ニ城主ノ組屋數

リ 井伊氏ノ時箕輪ノ椿名社ヲ此地ニ勧請アルトテ 結

構アリテ 既ステニ地ヲ七椿町ト名ケラシニカ 程ホトナク 岳乃根ニ移ラ

しこに因テ其事ヤミタルヨシ云傳タリ

普門寺

普門寺ハ小側ニアリ蓮光山福壽院ト號ス真言宗

新義ヲ玉田寺ノ末寺也境内除地開其業詳開山ハ

覺心ト云天正三年乙亥建立ト云傳タリ

門南向

護摩堂 門西ニアリ九尺ニ二間アリ不動ノ木像ヲ安ケ

作也作者不知

稻荷社 同所ニアリ板宮

本堂 七間半ニ五間萱葺南向也木尊大日脇士藥

師ノ木像也

裏門 北向タシホ出ル

法華寺

法華寺ハ東ノ突ツキ當リニアリ西郷山下号ス日蓮宗ニ

下総國平賀本土寺ノ末寺也境内除地大雲寺隣

ル昔箕輪椿山ニ法華堂トテアリシニ此ニ移ス并伊直政

ノ家臣西郷藤左衛門ト云者中興ノ寺トス 土俗相傳ノ慶長三年西郷藤

左衛門所割檢地ノ事ニツカリシカ此地東北ノ隅ニ何レモ屬シ 難キ地ナル故直政請テ箕輪ノ法華堂ヲ移シ中興ノ寺トスト云 故ニ西

郷山下号スト云傳タリ開山ヲ日儀ト云慶長二四年間
ノ事ナルヘシ

門西向

三十番神社 門左ニアリ九尺ニ二間并殿二間ニ間

リ瓦葺三十番神ノ木像ヲ安ス

稻荷社 同所ニアリ

本堂 四間半ニ四間板葺南向也中央ニ宝塔左右ニ

釋迦多寶ノ木像ヲ安置ス又鬼子母神ノ木像ヲ傳

教大師作ト云日蓮上人ノ木像モアリ

庫裡 六間ニ二間半板葺也

辨天堂

辨天堂ノ本所ノ北阪^{シホ}中ニアリ九尺ニ二間葺ハ葺也開基

不知善門寺ノ開山覺心代ヨリ持分トナリト云境内除地

本尊辨才天長五寸泥塑ニノ弘法作也前ニ辨才天ノ

木像ヲ安ス左右ニ毘沙門大黒及十五童子ノ木像アリ

天満宮 辨天堂ノ西ニアリ境内也

稻荷社 同所ニアリ

疱瘡^{ホウソウ}神宮 同所ニアリ

念佛堂 辨天堂之東ニアリ四間ニ三間萱葺也本尊阿
弥陀ノ木像又立像ノ弥陀アリ惠信作

若宮

若宮八幡ハ石祠也昔ヨリ本所問屋梶山某ノ持
也由来未詳

八幡宮

八幡宮ハ辨天堂之東向請地下ニ所松ノ村立タル中ニアリ
板宮ノ普門寺ノ持也永正十年癸酉和石兵衛大夫信
輝鬼門鎮護ノ為ニ勸請スト云傳タリ俗ニ八幡木林ト云

枏樹薬師

枏樹^{カキノキ}薬師モ同取田間ニアリ石像也此取^{カキノキ}枏樹アリ
故ニ名ツク興禅寺四世明堂^{ホウシユ}芳珠代ヨリ持也ト云

四屋町

四屋町ハ本所北^{カハ}類ノ小路ヲ云相生所ニ^{ツバ}統ク間部氏城主
タリニ時正徳元年辛卯新ニ開ク本所ノ云也

赤坂町

赤坂町ハ本所ノ西ニ^ツ統ク石橋ヲ境トス昔ハ此石橋ノ南^{カハ}類
城主家人ノ居宅五六區アリ其頃ハ給人^{キウ}所ト云酒井氏城

主、時元和元年乙卯家人、宅ヲ郭内移シ其跡ヲ所家
トス筑城以前ハ赤坂邊ニ居ニト云赤坂ノ事詳ニ此所按アリ
故ニ亦赤坂ト名ツク

熊野所 石橋ノ際ヨリ南ニ行小路也嘉多所ニ出ル

諏方明神

諏方明神社ハ熊野所ノ西類ニアリ熊野境内地主神
也本社九尺ニ二間アリ檜皮葺南向也安永三年甲午
二月回祿、後假宮也毎年七月二十七日祭アリ生社所、
造リ物ヲ出ノ壯觀トス昔此所名アリ康永九年三月

ト切有テアリ此石今ハ社内ニ納ム康永元年ヨリ今茲寛
政元年迄四百四十八年也和田記ニ寛元年中相州三浦
ヨリ熊野宮ヲ此諏方ノ地ニ勧請ストアルニ據レハ赤坂明
神ニ相次テ久シキ宮居ナレヘシ

熊野権現

熊野権現ノ宮ハ諏方社ノ南ニアリ寛元年中和田小
太郎義信相列三浦ヨリ勧請セシト云境内古木多シ
昔ハ社北赤坂所ノ方ニ門アリト云祭田赤坂村ニアリ每
年九月十九日祭アリ本所ヨリ上ノ所ノ職ヲ建鼓吹歌

舞之或ハサマノ造リ物ヲナシテ壯觀トシ神輿奉所
々々巡ル

鳥居 高九尺

本社 東向三間二間幣殿二間三間拜殿五間三間

檜皮葺也安永三年二月回祿後假宮ナリ

撰社 稻荷八幡天神疱瘡神辨才天等ノ板宮九社

森中ニアリ

鐘樓 二間四高鐘銘序ヲ按スルニ此社何レ時何人ノ

初請ト云イテ不知ト云リ傳説ト異也サレ共其銘作

者ノ姓名ヲ不載且近ク正徳元年成タレニ證據トス
ルニ不足其文亦絶作ニアラス故此ニ不録下諸寺鐘
銘収載セサル者亦然リ

慧徳寺

慧徳寺ハ松隆山下号ス南側ニアリ禪洞宗ニシテ白川村

瀧澤寺ノ末寺也寺領十五石五斗ノ御朱印アリ当

寺ハ天正ノ末井伊直政其伯母慧徳院宗貞尼公為

箕輪日向峯ニ於テ一字ヲ創シ慧徳院ト號ス慶長三年

直政高崎移ラレシニ及テ當寺ヲ復森ノ北移シ慧徳寺ト

號^{コウ}ス其後酒井家次城主之時今ノ地ニ移サレ開山ヲ龍山
英潭ト云瀧澤寺ノ第四世也退隱^{タイイン}ノ後當寺ヲ開普ハ
門前皆竹林也正保年中民家ヲ建テ町並トス
地藏 銅像也門外ノ左ニアリ
門北向瓦葺

白山宮 板宮門内ノ左ニアリ鎮守也

經藏 北向瓦葺二間ニ三間アリ額^{カク}ニ光明藏トアリ南谷
葦本尊千手觀音ノ木像大日銅像ヲ安^フ傳大史^{タイシ}
普成^フ普建^フノ木像モアリ傳大史名^{チウ}翁^{アカナ}字^{ケシ}元風善^{フツ}

慧大士ト号ス又東陽大士ト号ス二童子其子也此人
始テ輪藏ヲ制スト云梁ノ大元中ノ人也事跡佛祖統
紀ニ見タリ

本堂東向十一間半ニ七間萱葺也額ハ諦觀法王法如是
トアリ本尊釋迦文殊普賢ヲ朕士トシ大權達磨道
元ノ像ハ後檀ニ安置ス

間山堂三間半ニ二間萱葺也間山普照禪師ノ脾及木像
ヲ安ス

庫裡十一間半ニ九間廊下三間ニ四間板葺也

裏寮 七間ニ五間萱葺

裏間 本堂ノ西南坂下ニアリ野道也

長松寺

長松寺ハ北類ニアリ赤坂山下号ス禪瀧宗ニ興禪寺

ノ末寺也寺額十石 御朱印アリ當寺ハ元金井

ニアリ文明年中元海ト云僧建立ス其時臨濟宗ナリ

カ其後裏寮ノ舊跡ノミ存セシヨ寛永年中興禪寺六世

春喜隱遁ノ後此地ニ於テ再興ニ曹洞宗トスルヨシ寺説

ナリ

門南向瓦葺也

白山宮 門内ノ左ニアリ鎮守也

稻荷社 同所ニアリ

鐘樓^{シム}二間ニ九尺アリ本堂ノ前ニアリ

間^{エン}魔堂^マ六間ニ四間萱葺十王ノ木像ヲ安ス

裏寮 四間ニ六間萱葺也

本堂 南向十一間ニ七間アリ萱葺也額ニ長松禪寺

トアリ本尊阿弥陀殿士彌勒釋迦大權達摩

ノ木像ヲ安ス

庫裡四間、七間瓦葺

裏門庫裡ノ東ニアリ東向

番所

番所ハ慧徳寺ノ門前ヨリ坂ヲ下リテ南類^カアリ城下
上入口門也城主ヨリ守ラシム元ハ此地ノ向長松寺
ノ門ヨリ西ニアリシヲ寶永七年丁亥故アリテ今ノ所移
ス慧徳寺ノ境内ナルヲ以舊地ヲ代地トシ慧徳寺ノ附^レ此
所ニ番所ヲ建タリ

下町 木戸外坂下ノ所ヲ云寛文二年壬寅名ヲ洛合

^{ナニガシ}某城主ニ請テ町家トス元ハ此地ヲ赤坂^{クホ}注ト云

観音堂

観音堂ハ北側ニアリ普門寺ノ持也開基縁起不知永
正十年癸酉玉田寺^{ヤンセイ}音清再興ト云堂三間四間銅版ヲ
葺南向本尊土面観音立像行基作秘佛也前^レ蓮
慶^レ作ト云左右ニ十八部鬼ノ木像ヲ安ス蓮慶ハ南都ノ
佛工^ニノ法橋定朝六世孫也相傳^レ此堂元ハ赤坂山^ニアリ
後長松寺門ノ西ニ移ス其頃^ニテハアレキ草堂ナリ^レカ常
アタリノ童部共立入テ観音像ヲ取出シ偶人^ニナリ^テ

戲サスコレヲ制シ止ムル人ハ却テ其外ヲ受ニト云後令所
ニ移ス常ニ童共境内ニ集ニ遊戯スルに絶テアヤクナカスル
者ナシトナリ

辨天堂 堂ヲ西ニアリ瓦葺九尺ニ間アル辨才天及十五
童子ノ木像ヲ安ス

天湍宮 石宮也 同所ニアリ

大師石 同所ニアリ大石也弘法大師行脚時此石ニ腰ヲ

カケラシメトナリ又尊御腰掛石共云何レハ尊ヤ末詳淺
間山ノ説ニ據ル日本武尊カ或説ニ立石トテ和田三石

一也ト云リ 三石事 見附録 相傳フ此石初赤坂山ニアリ名石ナ

ルヲ以慶長年中筑紫城ノ時モ用ルヲ不得他地從

サトテ雇役十餘人ヲシテ早カハニ漸ヨウヤニ重カハヲノ半塗至頂

遂ニ不舉人ニ大ニ怖テ道傍ニ棄置タリ元禄頃迄此

坂下木戸ノ傍ニアリシヲ里人聚リテ石ニ向願他遷リ至

ハ神崇メ祀ラトテ誓ヒテ數人ニテ奉ケル彼石殊ニ輕ク

輒此所ニ移ト云今瘧疾ヲユ患ル人祈ハ必愈故ニ瘧石共呼

瘧石ダツ夜婆石像同所ニアリ弘法作ト云傳タリ土俗此石ヲエヤツ

ツカバ石ト稱ス三途河老婆石ト云ナリカイサウ瘧疾ヲ患ル人

此像ニ祈シハ立トコニ治スト云傳タリ
王俗祈願驗アリ麥
煎粉ヲ供ノ報賽

トス大師石ニ祈ルモノハ竹筒
酒ヲ盛テ報賽トスト云

念佛堂 同所ナリ東向五間ニ四間半板葺也本尊

阿弥陀殿ニ觀音勢至也

薬師

薬師石像四屋所ノ西ニアリ真禅寺ノ持也天正年中

真禅寺四世明堂ホウニエ方珠此地ニ安スト云傳タリ

相生所

相生所ニ四屋所ノ北ニ統ツツク室曆六年丙子赤坂所小泉某願テ

家作ノ所トス同九年己卯領主ヨリ相生所ト名ケラレ赤坂
所今也此所三國通嶺名上野
越後ノ境ノ大道ニノ金古ハ三里アリ又
榛名山伊番保温泉ニモ行道ナレハ旅客常ニ往来ス左右
茶店多クシ

常盤所

常盤所ニ赤坂所ノ西ニ統ツツク高崎上ノ入口也正徳元年辛
卯所トナル本所ノ分也享保年中火災ノ後故アリテ南側カハ
ハ人家ヲ不造苦橋ヲ樹テ橋トス此所茶屋軒ヲツラ子テ食
品ヲ沽ル

筏場

筏場、常盤所入口木戶外ヨ云鳥川ヲ渡リ板鼻行ク
中山道ノ往還也此地ヲ筏場ト呼イハ昔信州本山ヨリ
出ル材木ヲ此河岸ニテ筏ニ組テ江戸下ス故ニ名ツク事ハ
本所ノ條ニ記ス右方ニ船頭小屋五軒アリ是昔本所ヨリ出
ニ置番人武筏士等ノ子孫也今ハ渡守トナル故ニ船頭
呼トナリ左ハ鳥川流クト夕川原渺クタリ故ニ土人毎夏月
此納涼ス右田園漸ク高ク岸上樹竹ノ間ニ城下ノ人家往
見ユ長隈ヲ過テ渡頭ニ至ル其間眺望スルニ碓氷榛名山

西北ニ連リ真向ヲシ淺間嶽雲ニ聳ルテ見コ

四阿屋推現

四阿屋推現ノ石宮ハ筏場ノ大道ヨリ東高キ所ノ木中ニア
リ此邊ヲ上和田ト云元和始本所ヨリ此宮ヲ造立ノ舟路
ノ難ナカラコトヲ祈ル玉田寺十世増覺勸請ス云
覺ハ慶長十九年甲寅ヨリ元和八年
辛酉迄八年任持ス故ニ今元和始トス 今ニ玉田寺ノ持也所祭船王
命也祭ハ正月土日龍尊ヲ忠心フル者此宮ニ祈ルハ必治スト云傳
タリ報賽ニハ當ナキ拘ヲ用ユ

稻荷社

稻荷大明神社同取東ノ岡ノ上ホク中ニアリ板意相傳
此社永正年中和田右兵衛大夫信輝ノブテ勸請ス玉田寺園
増ソウリツ鑿其祭ヲ奉スト云今ニ玉田寺領ノ内也此地ヲ稻荷山下
云モト楓多ク紅葉頃片園山ヨリ遙ハルカニコレヲ臨ミメ錦キン備ホウヲサラセル
カ如之又春秋此所ヨリ片園山ヲ望ミムモ亦風致フウケイアリ花紅葉
身相映祭ス

觀音

觀音石像常盤町ノ北ホク中ニアリ又石小祠アリ祭神未
詳是モ玉田寺増鑿ソウリツヲ勸請セシト云
増鑿ハ永正十二年乙亥ニ化
スト玉田寺ノ記録見タリ

サレハ是モ和田氏ノ時ナリ

上記自連雀町至篠場

高崎志卷中終

須藤權左衛門上房
之寫



群馬県立図書館



1049462-3